

第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会  
2015年6月13日(土)～14日(日)  
@つくば国際会議場(茨城県つくば市)

ワークショップ19	
タイトル	行動科学から考える外来診療～ピットフォール回避のために～
日時	6月13日(土) 13:50-15:50
企画責任者	鋪野 紀好 (公募企画)
定員	60名
開催の目的・概要	
<p><b>【開催の目的】</b></p> <p>初診患者の病態の深刻さの把握は必ずしも容易ではありません。実際には症状が悪化しているにも関わらず「変わらない」あるいは「良くなっている」と答える患者も存在し、患者の訴えを額面通りに受け取ると誤った判断をしてしまうことがあります。このような場合、行動科学、特に患者受療行動に注目することが、問診の限界を補い、ピットフォールを回避する一つの方略となります。</p> <p>本セッションでは、具体的症例を提示し、ピットフォールに陥った思考過程の共有と回避策の議論を通じて、患者受療行動の重要性についての認識を深めるとともに日常診療に応用可能な方略を学習することを目的とします。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>本セッションの前半は、参加型カンファレンス形式で行います。千葉大学総合診療部で経験した具体的症例を提示し、ピットフォールに陥った思考過程を共有した上で、その回避策について議論したいと思います。後半はスモールグループでのワークショップ形式とし、参加者の皆様に、患者の受療行動が診断の手掛かりとなった症例や、受療行動からピットフォールを回避できた(あるいは陥ってしまった)症例を持ち寄って頂き、ファシリテーターのもとでのグループ討議を行います。</p> <p>「名人芸」を競うのではなく、参加者全員が翌日の診療から活用できる方略の共有を目指したワークショップにしたいと考えておりますので、是非お気軽にご参加ください。</p>	